

平成21年度上半期労働災害統計報告

トップの決意 みんなでつくる安全文化！

労働災害統計委員会

平成21年度上半期（平成21年4月～平成21年9月）における会員事業場より報告された「労働災害統計票」を集約した結果について、次の通り報告致します。

【特徴】

1. 労働災害統計票の提出率は45.1%で対前年比3.4%の増加（101事業場の増加）となった。会員事業場におかれては一層のご協力をお願いし、今後の提出率向上（50%以上）に期待します。なお、前年同期に比べ会員事業場数が減少していることもあるが、休業件数については、338件で前年同期（454件）に対しマイナス116件であり、損失日数については14,936日と、前年同期（39,480日）に対し62%減少している。また、度数率は前年同期（1.20）に対し0.93と向上しており、強度率も前年同期（0.10）に対し0.04と減少している。（表1参照）更なる真の発生原因の追求と恒久的な再発防止策や改善が必要である。

2. 災害発生原因の態様別災害発生件数では、不安全行為は、「無理な姿勢で動作した」「作業状態を確かめなかった」が前年同期と同様、上位1、2位であり、この2項目で全体の42%を占めている。不安全行為の災害は日常の作業観察、管理・監督者によるパトロールで防止できるものであり、定期的に活動日程に織り込む必要がある。また作業を無理なく行うため標準作業に基づく指導等や作業改善も進めてもらいたい。一方、不安全な要素も、「安易な気持ちであった」「習慣的となっていた」が前年同期と同様、上位1、2位であり、この2項目で全体の42%を占めている。（表2参照）これについては、安全に対する感受性を高める危険予知訓練（KYT）等を継続的に実施する必要がある。異常時には

“まず止める”という原点に立ち返った活動を実施し、本質安全化を進めるためのリスクアセスメントを積極的に導入する必要がある。

3. 年齢別及び経験年数別災害発生件数は、経験年数別でみると、発生率（千人率）は前年同期とほぼ同じ割合で推移しており、経験10年以上が高く、ベテラン層に多く発生していることが窺える。また年齢別では、発生件数は「30歳～39歳」が105,325件と最も多いが、発生率（千人率）では20歳未満が2.06、60歳以上が1.27と高い。（表3参照）各事業場毎に作業の職種、作業形態は違うものの、「20歳未満」の若年層には災害の怖さを知ってもらうための体感訓練の導入、「50歳以上」のベテラン層には任せっきりにならないよう管理監督者からの作業観察で省略行為がないか注意をしていく必要がある。

以上のことから、会員事業場における労働災害を減少させるために、次の対策が必要と思われる。

- ①設備、原材料、作業方法等、既存、新規を問わず、リスクアセスメントを実施し、リスクを低減する。
- ②部品の取り置き、設備の配置、作業の流れに無理がないか、作業改善を図る。
- ③異常時・緊急時には、まず“設備を止める”“作業を止める”ことを徹底する。
- ④20歳未満の若年者には安全教育の徹底を図り、50歳以上のベテラン層には作業観察を実施する。

<表1> 平成21年度上半期労働災害統計表（平成21年4月～平成21年9月）

※休業件数のカッコ表記は交通災害。

支部名	会員事業場数	提出事業場数	提出率(%)	延労働者数	延労働時間数	休業件数	損失日数	度数率	強度率
川崎北	238	64	26.9	195,953	31,194,035	2	46	0.06	0.001
川崎南	380	218	57.4	257,672	37,742,110	36	869	0.95	0.02
鶴見	242	112	46.3	121,735	19,048,409	15	422	0.79	0.02
横浜北	470	152	32.3	251,289	37,936,203	45	622	1.19	0.02
横浜南	327	231	70.6	251,898	40,645,972	40 (6)	747	0.98	0.02
横浜西	295	85	28.8	127,979	14,869,358	28	549	1.88	0.04
横須賀	270	123	45.6	83,982	13,257,257	12	541	0.91	0.04
藤沢	383	306	79.9	342,863	52,508,261	43 (2)	8,500	0.82	0.16
平塚	423	176	41.6	162,470	25,121,741	27	509	1.07	0.02
小田原	326	139	42.6	148,133	22,061,697	26 (1)	482	1.18	0.02
相模原	442	127	28.7	139,197	21,244,691	26 (3)	628	1.22	0.03
厚木	552	226	40.9	310,279	46,719,882	38 (6)	1,021	0.81	0.02
計	4,348	1,959	45.1	2,393,450	362,349,616	338 (18)	14,936	0.93	0.04
前年同期	4,517	1,945	43.1	2,405,670	379,434,874	454	39,480	1.20	0.10

<表2> 災害発生原因の態様別災害発生件数（平成21年4月～平成21年9月）

不安全行為	不安全要素											合計	前年同期
	指図を無視した	知らなかった	他のことを考えていた	とっさの処置をした	安易な気持ちであった	習慣的(慣れ)となっていた	作業に不慣れ	未熟であった	安全知識が不足していた	心身不調であった	第三者に不安な要素があった		
合図、連絡の不徹底のまま動作した	0	0	0	0	1	2	1	3	0	0	0	7	15
安全装置を無効にした	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	5	11
機器の操作を誤った	0	0	0	1	5	1	2	3	0	0	3	15	25
間違った機器を使った	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
無理な姿勢で動作した	0	1	0	8	24	19	8	11	1	0	8	80	91
確実に持たなかった	0	0	0	1	4	10	5	0	0	0	1	21	29
作業状態を確かめなかった	0	3	2	4	19	19	1	11	0	1	2	62	76
保護具の使い方が悪かった	0	3	0	0	2	2	2	2	0	3	0	14	16
第三者に不安全行為があった	0	0	1	2	1	2	0	1	0	24	0	31	43
その他の不安全行為	0	1	2	8	17	14	0	3	0	2	56	103	140
合計	0	9	5	24	73	70	20	35	1	31	70	338	454
前年同期	2	19	8	29	88	75	43	52	11	38	89	454	

<表3> 年齢別及び経験年数別災害発生件数（平成21年4月～平成21年9月）

年齢別	1年未満		1年以上3年未満		3年以上10年未満		10年以上		合計	年齢別 在籍人員	災害発生率	前年同期 災害発生率
	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率				
20歳未満	4	0.75	6	1.12	1	0.19	0	0.00	11	5,350	2.06	1.86
20～29歳	12	0.19	13	0.21	17	0.27	0	0.00	42	61,981	0.68	0.96
30～39歳	16	0.15	13	0.12	27	0.26	21	0.20	77	105,325	0.73	0.81
40～49歳	9	0.09	12	0.11	18	0.17	49	0.47	88	104,545	0.84	0.73
50～59歳	10	0.13	6	0.08	20	0.25	47	0.60	83	78,829	1.05	0.81
60歳以上	5	0.17	4	0.14	9	0.31	19	0.65	37	29,232	1.27	1.38
計	56	0.15	54	0.14	92	0.24	136	0.35	338	385,262	0.88	0.87
前年同期	77	0.22	50	0.14	68	0.20	108	0.31	303	348,346	0.87	

※発生率は（発生件数／在籍人員）×1000